

街並みテクテク No. 18：清瀬駅～秋津駅（2024-12-15）

参加者：碓貴臣、岸敦夫・美智代（夫妻）、後藤幸子、佐熊範和、染谷ミドリ、高野泰三郎、三木和幸、木村芳一（敬称略；計9名）

行程：清瀬駅～秋津駅 約6km

清瀬駅→松山緑地保全地域→日本BCG研究所→救世軍清瀬病院→東京病院→多磨全生園（食堂、旧全生学園跡、望郷の丘、旧山吹舎、寺・教会、ハンセン病資料館、納骨堂）→曙橋（空堀川）→秋津駅

・駅近くの、清瀬市南西部にある清瀬松山緑地保全地域は、財団法人結核予防会結核研究所付属療養所があった所で、4万平方mの広さを有し、武蔵野の雑木林を残していました。市街地とは思えないような、自然豊かな所で、気持ち良く歩きました。

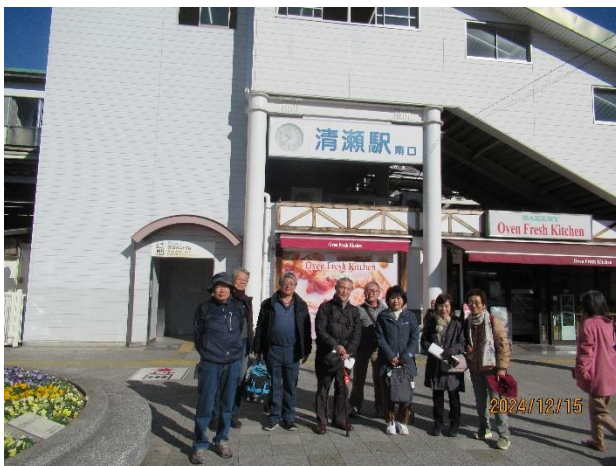
・途中にある救世軍清瀬病院や東京病院は広い敷地を備え、都心の病院とは異なる雰囲気でした。

・多磨全生園は35万平方mの広大な敷地を備えており、そこに病棟、居住域、学校、売店、宗教施設等が設けられています。そこでは隔離されて、外に出ることが許されなかった入所者が厳しい苦痛を伴いながら生活し、現在でも100人程度の人が住んでいるということです。ハンセン病資料館には、差別と偏見にさらされてきたハンセン病患者に関する歴史が詳しく紹介されています。

・ハンセン病の病原菌である“らい菌”は感染力が非常に弱く、また1947年に“らい菌”に有効な薬が使用されようになったのですが、強制隔離を実施する「らい予防法」が廃止されたのは1996年になってからです。政府の対応の悪さの極みです。

・大きな問題を抱えていた全生園を見学した後、秋津駅に向かい、懇親会を行いました。

（木村芳一）



西武池袋線清瀬駅前にて



松山緑地保全地域



東京病院の広大な庭



全生園内の通り



全生園の山吹舎（4軒長屋、1部屋
12畳半に最大8人の共同生活）



入所者の心の支えになった宗教施設
の一つ



東村山市の「いのちとこころの
人権の森宣言」